

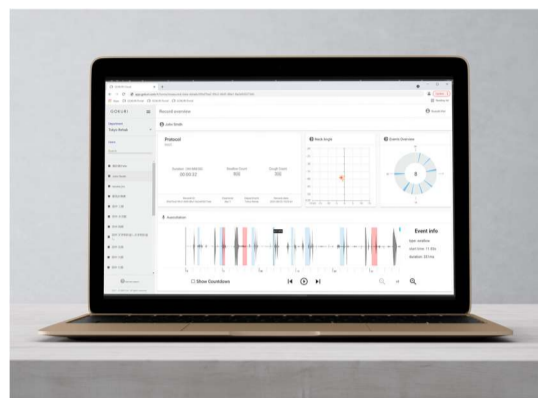
嚥下装着型嚥下モニター（GOKURI）による嚥下機能モニタリングの検証を開始します

2023年3月より、茨城県立医療大学附属病院にて頸部装着型嚥下モニター（GOKURI：<https://plimes.com/gokuri>）を使用した実験を開始します。GOKURIは、専用に設計されたネックバンドと人工知能技術を用いて嚥下音と頸部の角度を計測し、食事中や水を飲む時の嚥下（えんげ／飲み込むこと）や咳・ムセを識別します。GOKURIは国立大学法人筑波大学発ベンチャー企業PLIMES株式会社（本社：茨城県つくば市）が開発し、多くの病院や施設と共に研究開発が進められています。



ネックバンド

専用端末



クラウドでデータを確認

日常的に行う嚥下は、加齢や病気によりその機能が低下する傾向があります。嚥下の機能が低下すると、飲み物が誤って気管に入る可能性が高くなり（誤嚥・ごえん、と呼びます）、誤嚥性肺炎を発症する危険が高くなります。そこで、GOKURIを活用して日常的に嚥下を計測することにより、効率的に医療やリハビリテーションにつなげ、1日でも長く食事を楽しめる社会の実現と誤嚥予防の両立を目指します。

本病院において、GOKURIの持つ機能を実際に検証することで、将来的に新たな治療やリハビリテーションの提供に繋げることができると考えています。



本研究は、令和5年度に採択された茨城県立医療大学プロジェクト研究(226)による助成を受けて、附属病院の先生方と共同して実証実験を行います。

【問合せ】

茨城県立医療大学 保健医療学部 人間科学センター

倉本 尚美（准教授）

Email: kuramotona@ipu.ac.jp